

平成31年度一般会計当初予算 ふるさとづくり応援基金活用事業一覧

活用基金総額 2億2,400万円

事業名	事業内容	ふるさとづくり応援基金活用額
「移・職・住」促進事業	IJUターンや東京圏からの移住促進、県内で地場産業の事業拡大に伴う雇用支援、事業承継支援、体験(バスツアー)・広報(SNS等)・ツール(リーフレット)の3つのメディアを使った移住促進PR、仕事と住居が一体となった空き家・空き工場の改修支援によって、移住定住策を一層推進する。	790万円
波佐見ファン拡大事業	「来なっせ100万人」を達成し、新たな目標である「来なっせ150万人」達成を目指して、航空会社との連携による波佐見町の魅力発信、東大生京大生による観光マップ作成・情報発信や町民を対象にした波佐見町の魅力を再確認する「逆ツアー」の実施、桜づつみ河川公園の新しくなった路面を使ったONSEN・ガストロミーウォーキング、都市圏との交流受け入れ体制整備のための農家民宿等の改修支援、新たな土産品開発、波佐見町の顔である岩峠大型看板の照明整備、観光客の動向分析調査により、一歩先を行く観光事業を目指すことで「波佐見ファン」を拡大する。	3,318万円
伝統文化・景観保存整備事業	波佐見町の伝統文化・景観を後世に残すため、無形民俗文化財(野々川浮立)の映像記録作成、中尾郷・鬼木郷の文化的景観保存に向けた調査、皿山人形浄瑠璃の知名度向上のためのラッピングを施した車両購入支援、講堂の活用を促進するために音響機器設置を行う。	660万円
結婚・子育て支援事業	総合的な婚活支援(出会いの場提供、セミナー開催)、新婚世帯への住居費用等支援、長崎短期大学と連携した講座、誕生祝品として新たに波佐見焼の離乳食プレートを贈呈するなど、結婚から子育てまでの支援を拡充する。	350万円
人づくり推進事業	5～6ヶ月の乳児へ絵本を贈呈するブックスタート事業、町内の小学生を対象とした史跡見学等の郷土学習、平成32年度から義務化されるプログラミング授業の先行体験、基礎運動能力向上を目指したジュニア体育教室、英語に親しむ英会話体験教室を行い、中学生においては、作陶・窯焚きを体験するやきもの文化体験、実践的な英語を学ぶイングリッシュキャンプを実施するなど、波佐見町の将来を担う人材を育てる。	500万円
学力向上対策事業	リーディングスキルテストの実施による小中学生の読解力の把握、I-Check(学習動態調査等)や標準学力調査の実施による学力分析、プロジェクター投影スクリーンボードの追加導入を行い、多角的に未来を担う子どもたちの学力向上を図る。	350万円
スポーツ・文化推進事業	スポーツ少年団や中学校部活動への支援拡充、小中高校生がスポーツ・文化活動において全国大会等に出場する際の支援を拡充することで、スポーツ・文化活動を一層推進する。 また、完成から30年以上経過し、老朽化した鴻ノ巣公園テニスコートを一新することで、子どもから大人までの競技力向上を図る。	7,552万円
給食センター機能強化事業	老朽化に伴う機能低下が見え始めたボイラー等の設備更新、食の安全を徹底するための空調設備設置、更には子どもたちへ地元食材を提供する機会を増やす地産地消推進事業を実施することで、給食センターの機能強化を図る。	6,200万円
安心安全まちづくり事業	町民の安全を日頃から見守るため公用車(消防車含む)へのドライブレコーダー導入、消防機能強化・迅速な活動のための第4分団詰所・水防倉庫建て替え、有事に備えた非常食・毛布・非常用水袋の購入や備蓄倉庫の設置、歩行者の安全確保のためのカラー舗装、交通量が多い波佐見縦貫線の舗装更新により運転時の安全性を向上させることで、安心安全なまちづくりを目指す。	2,520万円
利便性向上事業	公営住宅使用料、後期高齢者医療保険料、公共下水道受益者負担金について、コンビニエンスストアにおいても納付できる環境を整えることにより、町民の利便性を向上する。	160万円

※上記の活用事業は、事業費の一部に基金を活用する事業を含む。